

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙4章25～32節>

①もう嘘を語って身を守る必要はない！ 主の教会で生きる恵み

25節から、信仰者が目指すべき生き方が具体的に示されて行きます。その最初が「だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです」(25)です。この中に出て来る「偽りを捨て」の「捨てる」は「脱ぎ捨てる」という意味を持っています。それは直前に言われている、「滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、～ 神にかたどって造られた新しい人を身に着け」(22-24)の中の「脱ぎ捨てる」が考えられているからです。ではなぜ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨てられたのでしょうか？ それは、神様がイエス・キリストによって、私のような者を赦して下さり、生かして下さる恵みを知らされたからです！ もうその方の前では、また、そのことを同じように信じている人たちの中では、嘘の服を着て本当の自分を隠す必要がないからです。「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです」(16)、この、皆で一つの体を造り上げる主の教会だから、もうその中では、ありのままで生きていいのです！

②「怒るな」のではなく、「怒り続けないように」との教え

ここでパウロはまず、「怒ることがあっても」(26)と語り出します。怒ることがあることが前提とされていますし、実際、怒らなければならない場合もあるので(為政者や会社の隠ぺいなど)。しかし、「罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。悪魔にすきを与えてはなりません」、とされているのです。つまり、いつまでも怒り続けたり、場合によっては増大させて別の罪を犯したら、それこそ悪魔の願い通りになっているのだと言われているのです。怒りを持ち続けず、怒るべきことには冷静に、しかるべき仕方の問題にあたっていく。信仰者が取り組んでいくべき姿がここに示されています。